

・対象都市：大分市

大分市を選んだ理由は土地勘があるというのが一番の理由である。

大分市はお世辞にも都会とは言えない。昨今の人口減少社会において、大分市のような地方都市はコンパクトシティになることが求められる。現に大分市は平成に入り規制緩和などもあり、郊外に大規模ニュータウンやショッピングセンターが立地し、大分市中心部は衰退していった。この都心空洞化に歯止めをかけるように駅周辺の再開発が始まったのだ。

私は大分市の出身ではないが、中学校以降市外から電車を使って大分市の学校に通学していた。中学校の頃は駅の周りは活気がなく、特に南側は改札があるだけだった。しかし私が中学高校と通った6年間で驚くほどに駅周辺は見違えた。このようにして肌で感じてきた大分駅周辺の開発を中心に、大分市という都市を考えていく。

・大分市という都市の特徴

大分市という町は北側にある城址の周辺を中心に発達しており、大分県庁、大分市役所、法務総合庁舎、中央警察署、税務署のほか、金融や証券、銀行などが、大分城址付近には集約されています。そこに国鉄の線路が東西にのびるようになってきているため、南北が完全に分断され、下の写真からもわかるようににぎわっている北側と、何もない南側で格差が生まれてしまっており、まちとして一体となっていなかったのだ。



地区画整理事業の施工前・平成14年撮影



給水塔より臨む「大分いこの道」他再開発エリア・平成26年撮影

確かに中学生のころ大分駅の南側はすたれており何もなかった印象だった。

このような問題と都市空洞化の時代が相まって大分市は衰退していたのだろう。

・大分市開発による成果

様々な問題を解決するために駅周辺から大分市の都市開発が始まった。

まず大分駅の高架化の工事が行われた。高架化をすることによって、南北をつなげ格差をなくすことができるのであろう。駅南側は、国鉄の鉄道操車場や鉄道病院跡地、木造住宅など利用の低い土地や空き地が多数点在していたが、再開発では、全国でトップクラスの幅員100メートルの緑のシンボルロードを誕生させた。シンボルロード"大分いこいの道"は、緑溢れる芝生広場を有する新たな市民の活動拠点であり、にぎわいや憩いの場として親しまれている。また文化施設としてホルトホール大分も完成させた。その結果として周辺には住居用マンションなどが増え、街の付加価値向上に繋がったのだ。

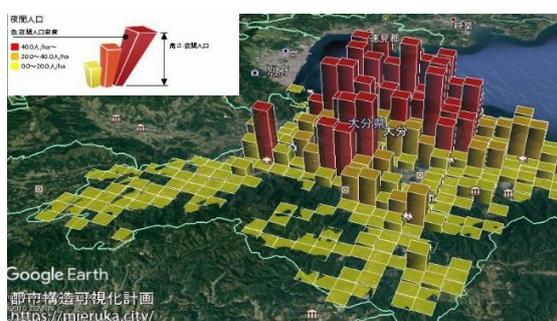
下のメッシュデータを見てみても、極端ではないが2000年ごろではやや大分市の中心だけでなく人口は散らばっていたが、2018年では、開発による住居用マンションが増えたことによって中心地に人口が集まったのだろう。

芝生広場には巨大なリングがあるが、これは市政施工時からの100年間の各年の人口を直径に置き換えたモニュメントである。2011年の市政100年時に置かれたもので、まさに市民による市民のためのシンボル(象徴)となっている。このように形にするとわかりやすく人口が増えていっているのが、わかるのだ。

自分の中学時代すたれていた大分駅周辺も、高校生の途中にあ駅ビルもできて活気あふれる場所となっていった。

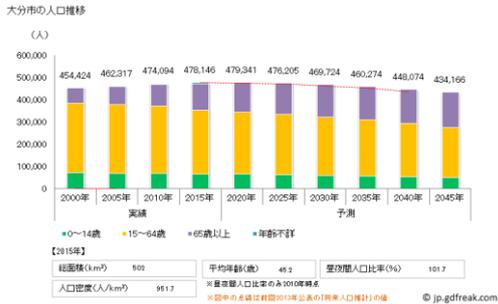


・2000年 夜間人口



・2018年 夜間人口

・都市開発をした上での課題



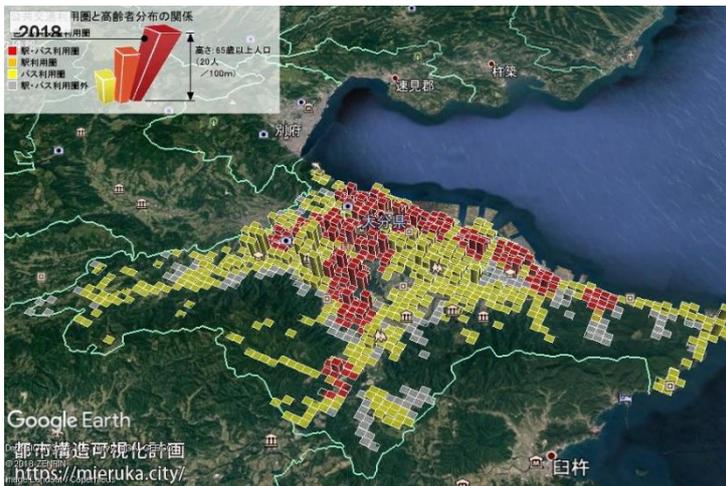
大分市の高齢化率の推移



目覚ましいほどの発展を遂げている大分市中心部ですが、狭い範囲で見たとき利便性はかなり上がっているし、住みよい街になっていますが、まだまだ課題はあるのだ。このグラフを見てみると先ほども言ったように、大分市中心部だけじゃないため顕著には伸びていないが大分市の人口は増えていっている。しかしもう一つ別のグラフを見てみると、高齢者率が明らかに伸びている。やはり都市開発によって前に比べてかなりはってんはしたものの、若者は大分から出ていっているのがわかりやすく表れている。正直なところこの問題は、東京、大阪などの大都市がある以上避けられない問題ではあるが、高齢者が増えると起きる問題は少なからず発生する。

大分市は自動車に依存した生活であると思う。実家に帰ったときに出かけるときは基本的には車で行くような印象だ。高齢者でも、車を保有している人は多い。そうなってくると、気になるのが高齢者による自動車事故である。よく最近ニュースで見る。明らかに高齢者の

ほうが事故の確率が多くなっているのは明らかである。解決するには、公共交通機関の整備がマストである。しかも高齢者の住んでいる場所は中心部よりも山間部のほうが多い。交通機関の整備がまさにおろそかになっている地域である。市内中心部の開発には確かに目覚ましいものはあるが、このような場所にもしっかり目を向けるべきである。



・まとめ

大分市は中心部に関しては肌を感じれるほど、発展していて実際にデータとしても表れているが、高齢者などの問題に目を向けて開発をさらに進めることで、さらに良い街になることだろう。